



SFTC交流会 2017 開催報告

会員団体がお互いに活動内容を紹介し合い、スポーツを通じた国際貢献・交流活動実施に向けて連携パートナーを見つける場として、2017年12月7日(木)に新宿NSビルにて「SFTC交流会2017」を開催しました。

今回は、会員団体に加えて、会員団体から紹介を受けた未会員団体にも参加いただき、合計110団体・217名が集まりました。これまでの交流会で実施してきたブースプレゼンテーションに加えて、団体紹介デスクも多くの団体に開いていただきました。相互理解とネットワーキングが進んだのではないかと存じます。

SFTC事務局では、これからも会員連携による事業の促進に努めて参りますので、「SFTC交流会2017」に参加できなかった団体を含め、マッチングのお手伝いや認定事業申請についてなどお気軽にご相談ください。また、交流会については来年度も実施予定です。ぜひご参加ください。

ブースプレゼンテーション

会 場内にテーマ別に5つのブースを設けて、会員団体のうち希望団体・推薦団体によるプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションを行った25団体は、各団体の活動内容や他の団体に協力を求め

たい内容を熱く紹介し、参加者の方々は、今後の国際貢献や国際交流に向けての情報を得るため、メモを取ったりスマートフォンで写真を撮ったりしながら真剣に聞いていました。プレゼン終了後の質疑応答では、挙手制で質問をするブース、個別に列を作って質問をするブースなど、それぞれに盛り上がりを見せていました。

交流会参加者からのアンケートでは、「普段接点のない団体と繋がることができた」「事業のきっかけができた」などの声が挙がり、交流会終了後に交流会で知り合った団体と打ち合わせの機会を持ち、連携事業実施に向けて既に動き出している団体もいます。

プレゼンテーションブース 団体とテーマ 協力・活用団体募集

各プレゼンテーションの詳細や
プレゼン団体のご紹介については
SFTC事務局までお問い合わせください。

テニスを通じた
国際交流
-海外遠征を
教育の機会に-
Sport&Education
Project

ドイツ・
ニュルンベルク市
相互青少年交流
新町スポークラブ

協力団体募集

① スポーツの 普及・交流

学生団体による
ラオスでの
スポーツイベント
(用具提供、協力団体募集)
SPW

日本在住の外国人に
スポーツの機会を
ネットボールの視点から
日本ネットボール協会

北欧での障害者
武道講習会・
カンボジアでの運動会
国際武道大学

草の根から
競技スポーツ ラオス
障がい者スポーツ普及
促進事業
アジアの障害者活動を
支援する会

スポーツを通じた
環境保全活動
-ケニアでのUNDOKAI事業-
グローバル
スポーツアライアンス

協力団体募集

② スポーツを通じた 社会課題解決

共生型スポーツを
活用した国際支援事業
-ドイツ・南米の事例紹介-
コ・イノベーション
研究所

国際交流にも
活用できる全国28の
国立青少年の家
国立青少年教育
振興機構

多様な社会課題に
アプローチできる
「スポーツ鬼ごっこ」
鬼ごっこ協会

活用団体募集

③ コンテンツの 提供

~剣は、人をつなげる~
プロジェクト実施と
演舞先の募集
魂刀流志伎会

難民支援の現場で、
スポーツだから
できること
難民を助ける会

フットボールで
精神障がい者が
暮らしやすい
社会の実現を!
日本ソーシャル
フットボール協会

海外トレーナー
派遣事業
スポーツアライアンス

ジョホールバルを
スポーツで盛り上げたい
(協力団体募集)
ジャパン・ジョホール
友好協会

国際交流基金の
スポーツ分野に対する
支援事業について
国際交流基金

一緒に学びの旅を
つくりませんかスタデ
ィツアー活用セミナー
エイチ・アイ・エス

活用団体募集

④ 助成金・ ネットワークの提供

スポーツ分野における
ジェトロの
海外展開支援について
日本貿易振興機構

事業の効果的な
マスコミ発信について
-弊社「絆」駅伝を事例に-
毎日新聞社

スポーツツーリズム
への関わり方
日本スポーツツーリズム
機構

⑤ 情報・知見の 提供

国際協力における
IT活用法
GDI
コミュニケーションズ

国際交流の船旅
スポーツ用具を
届け続ける理由
(用具提供団体募集)
ピースポート

アフリカへの
スポーツ草の根
支援ネットワーク
太陽インダストリー
アフリカ

"一生に一度"の
ラグビーワールドカップ
日本大会の魅力とは
ラグビーワールドカップ
2019組織委員会

ファンや支援者との
繋がりを強くする為の
SNS活用方法
-スイメディアの
事例をもとに-
ルピナス



《ブースプレゼンテーション実施団体からの感想》

- ▶大変多くの方にご関心を持っていただけて嬉しいです。これからオリンピック・パラリンピックに向けてスポーツの交流がより盛んになればいいなと思っています（競技団体）。
- ▶自治体の方やスポーツ団体の方が想像以上に国際交流にご関心を持っていることを改めて感じました（NGO/NPO）。
- ▶皆さん笑顔で聴いてくださり、いろいろな団体の方から声を掛けていただいたので、これから活動範囲が広がればいいなと思っています（NGO/NPO）。
- ▶スポーツをツールとして国際貢献をすることは、4、5年前は全く意識されていませんでしたが、SFTができてから関心を持って動いている方が増えて、そういう方とコミュニケーションが取れる交流会は年に1回の貴重な機会です（民間企業）。
- ▶スポーツの団体ではない方とも紙面では得られない情報をたくさん得ることができ、face to faceでお話もできてとても良かったです（大学）。

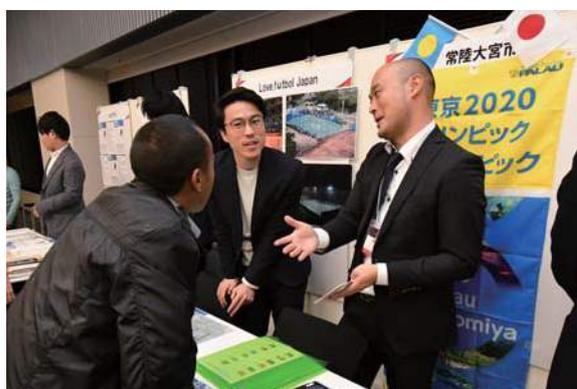
全体プログラム

全体プログラムとして、スポーツ庁藤江審議官にご挨拶いただき、SFTC事務局からは「SFTで目指すものと会員間の連携について」プレゼンテーションを行いました。藤江審議官からは、「SFTCは立ち上げから3年が経ち、350団体の参加者の方々と共に大きく育っています。世界につながる様々な団体で形成されているので、今まで出来なかったことも実現できる可能性を秘めています。交流会が、新たなマッチン

グを生み出す出会いの場となれば幸いです。そして、2020年を超えても国際スポーツ界に於けるレガシーとなっていけるようにスポーツ庁としても取り組んでいきたいです」とのコメントがありました。

団体紹介デスク

今回の交流会では、団体紹介デスク活用団体を募集し、28団体がポスターや写真の展示・資料配布・商品の展示などを通して活動紹介を行いました。民間企業・自治体・競技団体など多様な団体が常設のデスクを活用し、情報交換が積極的に行われました。



■団体紹介デスク 一覧

No.	団体名
1	アルビレックス新潟シンガポール
2	鬼ごっこ協会
3	コ・イノベーション研究所
4	国際交流基金
5	国際協力機構 (JICA)
6	国際文化交流協会
7	魂刀流志伎会
8	新町スポーツクラブ
9	聴覚障害者体育・スポーツネット
10	ジャパンジョホール友好協会
11	GDI コミュニケーションズ
12	スポーツアライアンス
13	Sport & Education Project
14	チャイルド・ファンド・ジャパン

No.	団体名
15	日本体育協会
16	日本スポーツ振興センター
17	日本体育大学～スポーツ・アカデミー形成支援事業～
18	日本体育大学～パラリンピック参加国・地域拡大支援～
19	日本貿易振興機構 (JETRO)
20	日本スポーツツーリズム推進機構
21	日本ネットボール協会
22	日本ソーシャルフットボール協会
23	ネパール野球ラリグラスの会
24	Non-Violence Project
25	常陸大宮市
26	Love.fútbol Japan
27	リーフラス
28	ルピナス

Players for Tomorrow

スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムでは、会員団体の皆さんが様々な活動 (SFT認定事業) を行っています。「Players for Tomorrow」では、活動のキーパーソンに焦点をあて、彼らがどういう想いでスポーツを通じた国際協力・交流活動を行なっているか、インタビューを掲載しています。

第1回 「こころ」を育む活動 山本理孝さん (浦和レッドダイヤモンド株式会社)



浦和レッドダイヤモンドの山本理孝さんに、「ハートフルサッカー in ASIA」の活動についてお話を伺いました。

この活動は、浦和レッズがAFCチャンピオンズリーグへ出場したことをきっかけに始まり、今までにタイやインドネシア、ミャンマーなど、計14の国と地域 (延べ27回) で実施しています。

インタビューの中では「世界一幸せな国」と呼ばれているブータンやタイ・チェンマイにある「バーンロムサイ」であった、子ども達の心温まるエピソードを紹介しております。

第2回 カンボジア運動会から学ぶ教育方法とは 上原真莉さん (国際武道大学)



国際武道大学 (3年生) の上原真莉さんに、カンボジアでの運動会開催についてお話を伺いました。

将来は、地元沖縄の高校で保健体育の教師として働くために同大学に入学した彼女が、カンボジアでの運動会を通じて、子ども達との向き合う中で感じたことや、教師として大切にしていきたいことなどをお話いただきました。

第3回 「野球×ミャンマー」でネクストステージ

岡本篤志さん (元埼玉西武ライオンズ・投手、株式会社 L.M.K)



元プロ野球選手の岡本篤志さんに、ミャンマーでの野球普及活動について、お話を伺いました。

この活動では、ミャンマーにて現地の子供達や、ナショナルチームの選手達に野球の面白さを通じて、夢を持つことの大切さも伝える野球普及活動を実施しています。

また、岡本さんがアスリートの《ネクストステージ》の活動として、スポーツを通じた国際貢献活動を行う意味や今後の可能性についてお話しいただきました。

インタビューの詳細な内容は、下記のアドレスからご覧ください。

〈Players for Tomorrow 掲載ページ〉
<http://www.sport4tomorrow.jp/jp/news/pft/>

SFTC会員7団体がスポーツ庁・長官感謝状を授与

2017年7月のSFT全体会議におきましてスポーツ庁・長官感謝状の表章が行われましたのでご報告いたします。

スポーツ庁・長官感謝状の授与は、顕著なSFT認定事業を実施した会員団体に對し行うものです。

本感謝状は、スポーツ庁長官表彰規定を踏まえ、平成28年度までに認定事業を実施した運営委員会・政府関係機関を除く会員団体を対象とし、スポーツ庁にて選定されました。

<スポーツ庁長官コメント>

スポーツ庁は2017年4月1日から「第二期スポーツ基本計画」をスタートさせました。その中で、「スポーツで『人生』が変わる!」「スポーツで『社会』を変える!」「スポーツで『世界』とつながる!」「スポーツで『未来』を創る!」というスローガンを掲げております。まさにこの「『世界』とつながる!」がSFT事業であります。競技力やメダルを争うこともスポーツですが、スポーツを通じて外国の方と友達になる、そして同じ気持ちを共有することもスポーツの大切な要素です。会員の皆さん方とこれからもSFT事業を力強く推進してまいりたいと思っております。

認定事業で最も多くの裨益者に貢献

公益財団法人日本ラグビーフットボール協会

日本ラグビーフットボール協会は、アジアの国々を対象とした「World Rugby & Asia Rugby Performance Development Workshop」をワールドラグビーからの要請を受けてホストユニオンとして開催。裨益者数100,971人を創出した。同協会では、今後、2019年ラグビーワールドカップ開催国として各国との交流を深め、競技力向上に一丸となって務めていくことが期待されている。

World Rugby & Asia Rugby Performance Development Workshop



多様性を尊重する世界

公益財団法人日本卓球協会 株式会社アシックス 日本卓球株式会社

公益財団法人日本卓球協会、株式会社アシックス、日本卓球株式会社は2015年にモンゴル自閉症協会からの要請を受け、それぞれのリソースを持ち寄ることでモンゴルの知的障がい児への支援を実現。ウランバートルの特別支援学校では、室内でスポーツを楽しむ環境が整い、国際大会へも出場を果たした。「2015のSpecial Olympics World Games」で、モンゴルチームは、見事銀メダルを獲得した。

モンゴルスペシャルオリンピックス卓球代表チームへの競技環境支援



持続可能で逆境に強い世界

NPO法人ネパール野球ラリグラスの会

NPO法人ネパール野球ラリグラスの会は1999年より、主にネパールで青少年を対象に野球の普及活動を実施している。2015年にネパールで起こった大規模地震の発生時においては、これまでの活動を通して築いたネットワークを復興支援に活用し、野球大会開催を目標にネパール現地住民の日常生活回復支援や現地医療活動支援等を行った。

ネパール震災復興支援野球大会



クリーンでフェアな世界

国際武道大学・セノー株式会社

日本式の運動会を通して、仲間と協力することの楽しさや身体を動かす楽しさを直接届けた。運動会の運営に関しては、現地教員養成学校と国際武道大学の学生が共同で行った。また、セノー株式会社による各種用具の提供、動画教材の提供など、現地での運動会の定着に向けて継続した活動を実施している。

カンボジアにおける運動会・体育・スポーツ支援活動



スポーツ庁長官感謝状(概要)

対象団体:

- ・認定事業受付開始時から2017年3月末までに承認された認定事業を実施
- ・スポーツ庁長官表彰規定及び、長官感謝状の方針に沿う団体

表章項目:

1. 認定事業で最も多くの裨益者に貢献

2-1. 多様性を尊重する世界

スポーツは、人種、言語、宗教等の区別なく参画できるものであり、国境を越え人々の絆を育む。スポーツを通じた国際交流により、「多様性を尊重する世界」の実現に貢献する。

2-2. 持続可能で逆境に強い世界

スポーツは貧困層や難民、被災者など困難に直面した様々な人の生きがいづくりや自己実現のきっかけとなり、スポーツによる開発と平和への支援により「持続可能で逆境に強い世界」の実現に貢献する。

2-3. クリーンでフェアな世界

スポーツは他者への敬意や規範意識を高められるものであり、日本が率先して模範となることで「クリーンでフェアな世界」の実現に貢献する。

2-1~2-3については、第2期スポーツ基本計画の中でSFTが位置づけられている「スポーツで『世界』とつながる!」において強調されている項目。

Column

オリンピック・パラリンピックと国際貢献

2018年2月に平昌冬季オリンピックが3月には同パラリンピックが開幕します。

開催国の韓国は2010年大会、2014年大会の招致失敗を経て3回目で平昌大会の実現に至っています。

その勝因の1つにドリームプログラムという国際貢献プログラムが挙げられます。

韓国は2004年から2010年冬季大会の招致を目指し、ドリームプログラムを始動させました。これまで75の国と地域から1574人（うち105人が障がい者）を招聘し、スキーやスケートのプログラムを実施しました。参加している11-15歳のユースアスリートは、冬季スポーツ環境にアクセスが難しい選手たちです。そのような選手たちに冬季スポーツを行う環境を提供することで、冬季種目に馴染みのない国を支援してきました。

その結果、これまで23カ国166選手が自国の代表となり、オリンピックや国際主要大会に出場しています。（公式ウェブサイト：2017年12月26日現在）

このようなオリンピック・パラリンピックに関わる国際貢献プログラムは、2012年のロンドン大会でも行われました。

ロンドン大会招致公約として、「インターナショナル・インスピレーション」プログラムが2007年に開始され、2500万人の子供や若者に影響を与え、25万人の教員や指導者を教育し、55の国家政策や戦略の作成に関わる実績を残しました。

オリンピック・パラリンピック大会の裏には、このような国際貢献の取り組みも行われています。Sport For Tomorrowという同様の国際貢献活動に携わる私たちも、競技結果だけではなく、この後の取り組みの成果にも着目してみたいかがでしょうか。

（SFTC事務局ディレクター 河原工）



会員が後押し！1年で67万人増、全体の20%を超える

2018年に突入し、2020年まで残り3年を切りました。2014年に始まったSFTも軌道に乗り始めています。

2017年9月末時点でSFTC会員も342団体に増え、この輪は今後ますます増えていくことが予想されます。

運営委員を除く会員が創出する裨益者数は当初の1%から全体の20%を占めるまでになり、認定事業による裨益者数も約80万人に達しました。

2016年9月からの1年間で、67万人もの裨益者を創出しています。

これは会員が増えたことが要因の1つであり、加えて会員の活動率（会員に占める事業実施会員の割合）が50%を超えたことも大きいと言えます。さらに会

員が増えたことで活用できる資源が増え、マッチングが成立する件数も増えてきています。

今後もこのように有機的な連携が継続的に生まれ、SFTの輪が広がっていくことが期待されます。

■会員団体数の推移と全体に占める認定事業裨益者数の割合



SFTC2017年度入会会員 (2017.4~2018.1)

地方公共団体・ 関連団体	一宮町	民間企業	エクストリーム・スポーツ
	掛川市		エムアンドワイ企画サービス
	カワゴエ・マス・メディア		L.M.K
	鶴岡市		OKPR
	豊島区		オーシャンズジャパン
	長崎県		CLIMB Factory
	新潟市開発公社		グローバルアリーナ
	新潟市文化・スポーツコミッション		コ・イノベーション研究所
	常陸大宮市		三英
	姫路市		シズン時計
	船橋市		George P. Johnson
	別府市		スポーツコミュニティ
	前橋市		スポーツフィールド
	和歌山県		スポルバ
スポーツ関連団体	旭川地区サッカー協会	大日本印刷	ALmundo バス Project
	Athletes For Fans	パークフォーアス	エブリチャイルズオーガナイゼーション
	アミティエ・スポーツクラブ京都	フットボールサムライアカデミー	オーキック
	国際雪合戦連合	ホークス	学生団体 SWITCH
	千葉県体育協会		グッド・エイジング・エールズ
	日本オーストラリアンフットボール協会		さくら・車いすプロジェクト
	日本オリエンテーリング協会		ジャパン ジョホール 友好協会
	日本カヌー連盟		ジョイセフ
	日本近代五種協会		Sport & Education Project
	日本サッカー名蹴会		チーム・ケーチルドレン
	日本障がい者バドミントン連盟		ハビリスジャパン
	日本ダブルダッチ協会		学生国際協力団体 CUE
	日本ネットボール協会		グローバル教育推進プロジェクト
	日本マスターズ水泳協会		日本財団パラリンピックサポートセンター
藤枝 MYFC		ブラジル日本都道府県人会連合会	
大学	千葉大学	その他	ベトナム日本商工会スポーツ文化委員会
	立命館大学		
民間企業	アスラボ		
	イオンリテール		
	茨城交通		

SFTC事務局からのお知らせ

SFTC会員団体向けメーリングリスト、SNSをご活用ください。

SFTC 事務局では、SFTC 認定事業などに関する情報発信、会員間の連携促進を目的にメーリングリストを運用しています。さらに、Facebook等のSNSやSFTホームページでも随時情報を発信しています。

SFT Facebook
<https://www.facebook.com/sport4tomorrow/>

「参加者募集」「協力団体募集」「お知らせ」など、スポーツを通じた国際協力・交流事業に関して発信したい情報などありましたら、SFTC 事務局までご相談ください。メーリングリストについては、会員団体の方であれば複数名登録いただくことも可能ですので、登録アドレスの追加・変更などありましたらご連絡ください。

認定事業終了における報告書ご提出のお願い

認定事業終了後、できるだけ早めに下記 SFTC 事務局まで報告書の提出をお願いいたします。報告書のフォーマットは SFT ホームページよりダウンロードいただける他、会員専用サイトからも直接提出いただくことができます。ご報告いただいた事業については、「100 개국・1000 万人」

にカウントさせていただきだけでなく、SFT ホームページでも紹介いたしますので、ぜひご協力お願い致します。

※日本スポーツ振興センターのセキュリティ上、オンラインストレージにアクセスできない場合があります。画像ファイルを直接添付いただくことが難しい場合は、会員専用サイトのファイル共有システムをご活用ください。使い方などご不明な点がございましたらご連絡ください。

SPORT FOR TOMORROWホームページにて、最新のお知らせや事業レポートなどを掲載しています。ぜひご覧ください。 <http://www.sport4tomorrow.jp/jp/>

各種お問い合わせは、下記スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局までお願いいたします。



スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局
 〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35
 独立行政法人日本スポーツ振興センター 情報・国際部内
 TEL: 03-6804-2776 FAX: 03-3403-1570 Mail: sft.info@jpnpsport.go.jp

発行日：2018年1月31日